



小樽商科大学 広報誌 Hermes courrier

ヘルメス・クーリエ

2009. March

No. 22

特集：創立百周年記念事業

概要を発表しました1



「小樽商科大学シニアアカデミー2009

小樽商大『商学』の学びと小樽探求 - 歴史・文化・観光 - 」
の参加者を募集します

市民交流会「日中美術の現状」を開催

注目の美術家、封曙光氏、水墨画を語る4

「ゲーテ『ファウスト』を読みませんか」

を開催しました5

“本気プロ” 元気に活躍中！

商大雪あかりの路6

INFORMATION7

創立百周年記念事業



概要を発表しました

1. 新学生寮の建設

2. 基金の創設

3. 記念行事の実施

小樽商科大学は2011年（平成23年）に創立百周年を迎えます。その記念事業の計画については、これまでも本誌や本学HPにて、あるいは「一日教授会」において告知してきました。そしてこのたび、創立百周年事業の概要を発表しました。本事業は三つの柱から構成されます。1. 新学生寮の建設、2. 教育・研究の振興を目的とした基金の創設、3. 式典等の記念行事の実施です。

今回の特集では、まず百周年記念事業の概要について説明します。その後、三つの柱の中でも新学生寮の建設にスポットをあて、その理念ならびに構想プランと、これまでの学生寮の歴史を紹介します。

記念事業の概要

1911年（明治44年）に官立高等商業学校として開校して以来、本学は「北に一星あり、小なれどその輝光強し」と謳われ、小規模ながら北の名門校として伝統を築いてきました。そして、この百年にわたる歴史の中で、建学の精神と伝統を今に受け継いできました。これまでの歴史と伝統を今後更に発展させるため、本学は創立百周年を一つの通過点と位置づけ、引き続き時代の要請や社会のニーズを的確に把握し、寄せられる期待に確実に応えうる取り組みを展開します。

そこで本学は、次の百年を見据えて、創立百周年事業を以下の三つの柱を軸に企画しました。本事業は、本学の未来の方向性を示し、小樽の地の小規模な大学でありながら世界のなかの名門大学としてひろく認められる大きな契機になるものと期待されます。

1. 新学生寮の建設

本学百年の歴史の中で、建学の精神の一つである人格教育の実施に大きく関わったのが学生寮の存在でした。全国から集まった学生が、お互いに切磋琢磨し、刺激し合いながら勉学し、語り合い、生涯の友として成長していった姿は、多くの同窓生に語り継がれています。

現在本学には学生寮がなく、そのことが全国から入学を志す学生の足かせとなっていることは否めません。様々な背景を持つ学生達が全国から集う大学にするため、創立百周年を機に新学生寮を建設することとしました。

2. 小樽商科大学教育研究振興基金(仮称)の創設

法人化後の国立大学をとりまく財政状況は、ますます厳しいものになっています。その中で予算の効率的な執行や経費の削減の努力はもちろん続けてまいりますが、将来に向けて教育や研究の更なる質の向上をはかるため、教育研究振興基金(仮称)を創設いたします。

創立百周年記念募金の一部を基金の原資とし、百周年以降も募金の受け皿として継続、積み立てて様々な事業に活用させていただきます。

基金による事業としては以下を予定しております。

成績優秀学生への奨励金や課外活動への助成等の学生支援事業

教育・研究支援事業

公開講座や産学連携事業推進の地域貢献事業

福利厚生施設等の整備事業

3. 式典等の記念行事の実施

百年の伝統と歴史を語り継ぎ、次の百年の指針となる商大百年史の編纂や、卒業生や市民の方々と共に祝う記念式典、記念講演、国際シンポジウムの開催、キャンパス美化等の環境整備事業を実施します。

本事業については、本学HP内の専用ページも是非ご覧下さい(<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/100th/gaiyou.htm>)。また、プレ百周年記念事業として開催される「シニアアカデミー」については、本誌4頁をご参照下さい。

新学生寮の建設

創立百周年記念事業の一環として、1984年（昭和59年）に廃寮した智明寮以来、27年ぶりに新しい学生寮を本学キャンパス内（国際交流会館の横）に建設します。これにより、道内を含め全国各地から様々な背景をもつ優秀な学生達が集う場として、小樽商大が更に発展することが期待されます。

1913年（大正2年）に最初の学生寮である北斗寮が建設されてから、本学には道外からも多くの学生が集まり、お互いに刺激し合い切磋琢磨していました。しかし、1960年代以降、大学と学生のあいだで寮のあり方をめぐる対立が深まり、1980年には新規入寮が停止され、やがて廃寮となりました。そして近年では、本学学生のうち約9割が道内出身者によって占められる傾向が続いています。現在の学生寮不在の状況は、遠方からの学生の入学を妨げる一因になっていると考えられます。事実、これまでも学生や同窓生から、あるいは入学志願者から、寮を求める声が聞こえていました。こうしたことから、全国から学生が集まり、また充実した学生生活を送ることができるためにも、新学生寮の建設は本学の宿願でした。

そこで、創立百周年記念事業の柱の一つとして、新学生寮を建設することにしました。これは、従来の学生寮の長所と、現在の学生が求める住環境の要素を兼ね備えた新しいかたちのものとなります。最近の学生世代のプライバシー重視の感性を尊重して、かつての相部屋ではなく個室が基本となります。しかし、それだけでは他の集合住宅との違いがなくなり、学生寮としての特性が活かされません。したがって、8人を1ユニットとする構造にし、共同リビングを設置します。これにより、共同生活を通じた人格形成、社会性の獲得、および同窓意識の高揚という「寮」としての理念の実現を目指します。

新学生寮の理念

1. 人格形成の場

本学の大学憲章が目指す教育の目標を達成するため、快適な学習環境を確保するとともに、共同生活を通じて互いに切磋琢磨し、学生の人格形成に資する学生寮とする。

2. 社会性を身につける

学生個々人の価値観や思想信条をお互いに尊重し、認め合い、学生同士の交流を通じて社会性を身につける学生寮とする。

3. 同窓意識の高揚を図る

学生相互の連帯意識を高め、生涯の友となる仲間を作ることによって、大学への帰属意識を向上させる学生寮とする。

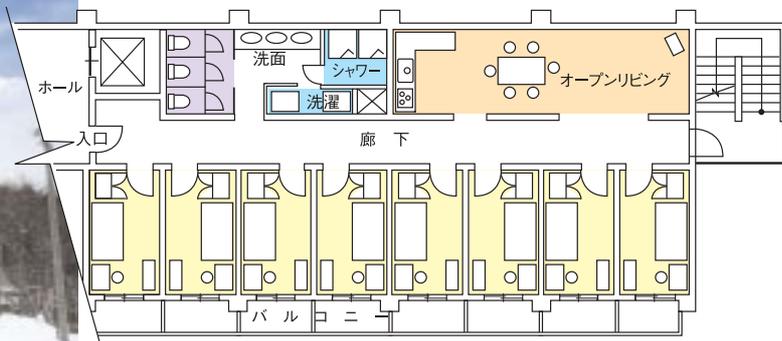


イメージ図

新学生寮の構想プラン

8人ユニット平面プラン

建設場所：国際交流会館の横（旧智明寮跡地）
 規模は100人程度
 個室、ベッド・机・いす・収納庫・IT回線を備え付ける
 8人を1ユニットとし、共同のリビングを設ける
 シャワー・トイレ・洗濯も8人ごとに共有とする
 食事の提供は行わない



新学生寮の建設予定地



学生寮の変遷

このページでは、これまでの学生寮の足跡を昭和30年頃の大学キャンパス平面図の上に再現しました。写真下の記録からも分かるように、かつて本学には、第1寮から第5寮まで5つの寮が、多少のずれはあるもののほぼ同時期に存在していました。そして1960年（昭和35年）に、それら全ての寮を統合するものとして智明寮が建設されました。今回、創立百周年を機に27年ぶりに再建される新学生寮は、現在の国際交流会館の横に建設される予定です。



新寮建設
予定地



第4寮(玉の井寮)

大正 5年(1916年)建設
昭和37年(1962年)廃寮
収容人数 41人 室数 22

現在の職員宿舎の場所にありました。

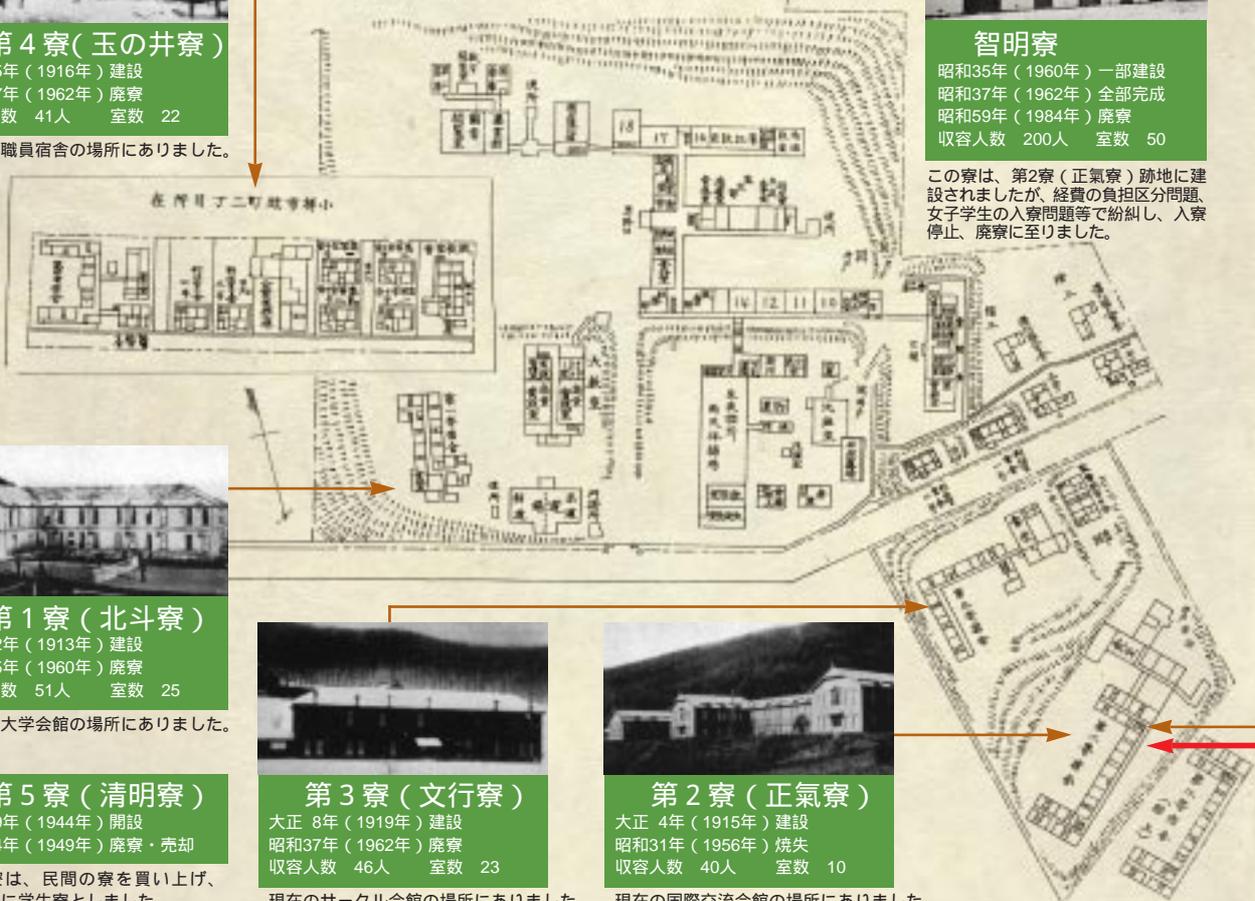


智明寮

昭和35年(1960年)一部建設
昭和37年(1962年)全部完成
昭和59年(1984年)廃寮
収容人数 200人 室数 50

この寮は、第2寮(正気寮)跡地に建設されましたが、経費の負担区分問題、女子学生の入寮問題等で紛糾し、入寮停止、廃寮に至りました。

小樽高等商業学校平面図



第1寮(北斗寮)

大正 2年(1913年)建設
昭和35年(1960年)廃寮
収容人数 51人 室数 25

現在の大会館の場所にありました。



第3寮(文行寮)

大正 8年(1919年)建設
昭和37年(1962年)廃寮
収容人数 46人 室数 23

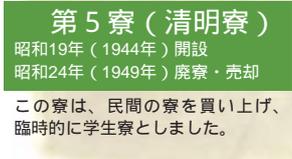
現在のサークル会館の場所にありました。



第2寮(正気寮)

大正 4年(1915年)建設
昭和31年(1956年)焼失
収容人数 40人 室数 10

現在の国際交流会館の場所にありました。



第5寮(清明寮)

昭和19年(1944年)開設
昭和24年(1949年)廃寮・売却

この寮は、民間の寮を買い上げ、臨時に学生寮としました。



創立百周年記念 募金のお願い

創立百周年記念事業を推進するため、本学は皆様に、その趣旨へのご賛同とともに、ご支援ご協力を「小樽商科大学創立百周年記念募金」にてお願いしております。その目的は、新学生寮の建設、教育研究振興基金(仮称)の創設、百年史編纂、記念式典・記念講演・国際シンポジウムの開催、学生企画による記念事業、キャンパス美化等の環境整備事業となります。詳しくは、創立百周年記念事業推進室にお問い合わせ下さい。また、「募金趣意書」や本学HP内の専用ページ等も是非ご覧下さい (<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/100th/kihu.htm>)

[創立百周年記念事業推進室] 〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号
TEL 0134-27-5492 FAX 0134-27-5493 E-mail ouc100nen@office.otaru-uc.ac.jp



プレ創立100周年記念事業

「小樽商科大学シニアアカデミー2009 小樽商大『商学』の学びと小樽探求 - 歴史・文化・観光 - の参加者を募集します

小樽商科大学では、プレ創立100周年記念事業として、「小樽商科大学シニアアカデミー2009 小樽商大『商学』の学びと小樽探求 - 歴史・文化・観光 -」を開催します。「小樽商科大学シニアアカデミー」とは、学習意欲が旺盛な団塊の世代の方や既に一線を退いたシニアの方を対象とする体験型生涯学習プログラムで、小樽商科大学の研究成果と小樽の文化、伝統、自然、産業などを題材とし、講義とフィールドワークの二本立てとなっています。詳細は次の通りです。

日時 / 平成21年9月1日(火) ~ 4日(金)
場所 / 小樽商科大学・小樽市内の社会教育施設など

参加費 / 受講料として20,000円(受講料の中には、プログラム内での移動交通費、記念写真代、関係施設の入場料、パーティ参加費用、2日目の昼食代を含みます。なお、個人の宿泊費、交通費は含まれません)

募集人員 / 30名(最少実施人員: 20名)
お問い合わせ先 / 小樽商科大学総務課総務係
TEL: 0134-27-5206,5207 FAX: 0134-27-5213
E-mail: shomu@office.otaru-uc.ac.jp

内容

1日目(9月1日)

商学の学び と地元企業からみた小樽
【講義1】
商学の学び 「(小樽に関連する)マーケティング論」
担当: 近藤公彦(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)
【講義2】地元企業からみた小樽(経済)
担当: 田中一良氏(田中酒造株式会社代表取締役)

2日目(9月2日)

小樽学 小樽の歴史、文化、観光
【講義3】「小樽学」
【講義4】「小樽学」
担当: 石井伸和氏(NPO法人歴史文化研究所副代表理事)
【フィールドワーク1】
講義3・講義4に関連したフィールドワーク(施設見学・体験プログラム)を実施します。

3日目(9月3日)

小樽の文学散歩 小林多喜二と伊藤整
【講義5】小林多喜二と伊藤整
担当: 荻野富士夫(商学部一般教育系教授)
【講義6】小林多喜二と伊藤整
担当: 倉田稔氏(小樽商科大学名誉教授)
【フィールドワーク1】
予定: 小樽商科大学資料展示室及び附属図書館貴重図書展示室の見学、旭展望台(小林多喜二文学碑)見学、ゴロダの丘(伊藤整文学碑)見学、北海製罐・海猫屋・旧北海道拓殖銀行をバスから見学、小樽文学館の見学

4日目(9月4日)

商学の学び と小樽観光についての意見交換
【講義7】商学の学び 「小樽の中小企業論」
担当: 田中幹大(商学部商学科准教授)
【講義8】小樽の観光についての意見交換会
担当: 海老名誠(ビジネス創造センター長)

市民交流会「日中美術の現状」を開催 注目の美術家、封曙光氏、水墨画を語る

小樽商科大学は、去る2月13日(金) 国際交流活動の一環として、現代中国を代表する山水画家の封曙光氏を札幌サテライトにお招きし、「日中美術の現状」と題する市民交流会を開催しました。この交流会は、同時期に大通美術館で開催された封氏の作品展「現代中国山水画の世界」(2/10~2/15)の企画のひとつで、封氏と親交があり、作品展の開催に尽力なされた彫刻家の鈴木吾郎氏が、本学で「文化論」の講義を担当していることから実現したものです。

伝統的な水墨画を描く注目の作家である封氏は、中国河南省鄭州美術館館長でもあり、その深く広い知識から、水墨画の真髄や技法、歴史的な流れなどを、パワーポイントを用いて手際よく説明されました。また、テラコッタの裸婦像や道内各地の野外彫刻で知られて

いる鈴木氏との対談では、日本と中国の美術界の現状について活発な意見交換がなされました。

当日は、現代中国の著名な美術家のお話を直に聞けるとあって、40名ほどの参加者が得られ、実際に封氏の作品展を見てから来られた方々も多く、会場からは水墨画に使われる紙や顔料、中国での美術マーケット等々について、さまざまな質問や意見が交わされ、中国美術への関心の高さがうかがわれました。



鈴木吾郎氏の司会で進められた封曙光氏と市民との交流会



市民交流の場: 小樽駅前プラザ「ゆめぼーと」をご利用下さい。
小樽市稲穂3丁目3番1号(小樽グリーンホテル別館内) TEL 0134-32-4624
開館時間 / 火曜日~土曜日 13:00~19:30

Topics

ゆめぼーとライブ

「ゲーテ『ファウスト』を 読みませんか」を開催しました

講師 / 中川勇治 小樽商科大学名誉教授
主催 / 小樽商科大学附属図書館

ゲーテの『ファウスト』といえば、誰もが聞いたことのある名作ですが、読んだことのある人は意外と身近にいないのではないのでしょうか。

附属図書館では、そんな『ファウスト』の面白さを中川勇治名誉教授が紹介する、ゆめぼーとライブ「ゲーテ『ファウスト』を読みませんか」を、平成21年1月21日、2月4日、2月19日の午後6時30分～午後8時00分、小樽駅前プラザゆめぼーとで開催しました。3回にわたって同一作品を扱う市民講座は初めての試みでしたが、小樽市民の方だけでなく、本学学生、札幌からはるばる参加くださった方を含め、毎回約25名の参加者により盛会のうちに幕を閉じました。

『ファウスト』は、老齢に達しても学問の真理は分からないことに絶望した学者ファウストが、悪魔メフィストフェレスと魂をかけた契約を結び、若返って人生の冒険に繰り出す戯曲です。講座では、『ファウスト』の原典である民衆本や原書のほか、成立事情・周辺事情など広範な『ファウスト』の紹介から始まり、最終日には、なぜ「悲劇」と言われているのか、ゲーテは何が言いたかったのか、といった問題について活発な意見交換が行われました。

参加者から好評だったことを受け、附属図書館ではゆめぼーとライブを定期的開催することを検討しています。ぜひ次回、みなさまご参加ください。お待ちしております。



時折ドイツ語を交えて熱く語る中川名誉教授の講演。

受講生の声

「『ファウスト』の概念は予備知識を知ることができたので、これから自分で読んでみたいと思います。来週も是非参加します。」

「いろいろな本についてたくさん読んで冒険したい気持ちになり、大変良かったです。」

「次回のイベントにも参加したいと思いました」

「素晴らしい企画だと思います。これからも期待しています。」

「他のドイツ文学にもふれてみたいと思いました。中川先生の小気味よい話に惹きこまれました。」

「思いがけない書物『ファウスト』についての解説のチャンスを得ることが出来、大変うれしく思っています。これからもこんな機会を作ってくれたらいいなと思いました。」

「普段聞けないような話を聞けて面白かったです。」



中川勇治（なかがわ・ゆうじ）

昭和33年 東北大学文学部卒業
" 35年 " 大学院文学研究科
修士課程修了
" 39年 " "
博士課程退学
" " 小樽商科大学講師
" 41年 " 助教授
" 43年 東北大学教養部助教授
" 49年 山形大学人文学部助教授
" 51年 小樽商科大学教授
平成10年 停年退職
小樽商科大学名誉教授の称号授与

ゲーテ『ファウスト』の魅力について

小樽商科大学名誉教授 中川 勇 治

最近、商大図書館の催しで市民の方々やゲーテの『ファウスト』を読んでいます。そして小生にはこのドイツ文学最高の作品(?)の魅力の説明する役目があります。ところがあの自由奔放なゲーテが六十年もかけ(勿論、何度もサボッタので)老人になってからようやく仕上げた代物だけに、これはもう大変な仕事。特に『ファウスト』第二部にはお手上げです。世界一の美女ヘーレナ(?)を冥界から呼び出して(?)自分の妻にするファウスト、男冥利に尽きる(?)筈のこの元貧乏大学教師は二人の子供エウポリオンが高所から墜落死する悲運に見舞われる。そして霊界から自分を恋い求める子供にひかれヘーレナも姿を消す。彼の両の腕には彼女がつい先程まで身に付けていた衣装とヴェイルが残るばかり。これが人間の愛の極致を象徴する一幕であると礼賛する人もいるが、本当か。唯のゲーテの自分勝手なギリシャ賛美じゃないのだろうか。それとも小生の無学の故か。

“本気プロ” 元気に活躍中!

「商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト」のことはご存じでしょうか？ いつの間にか“本気プロ”の通称が定着してきたこのプロジェクト、その名のとおり小樽商大の学生が小樽の観光を活性化するための提案をしようという趣旨の活動です。

このプロジェクトは、経済産業省の「平成20年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業」に本学が採択されたことを受けて、昨年11月から始めました。この事業に採択された大学は全国で9大学、道内では本学のみです。

このプロジェクトは、小樽市と大学の協働で実施されているところがミソで、小樽観光のリアルな課題：札幌圏マーケティング 国際観光化 地域ブランド開発 滞在型推進について、1年生から3年生までの49人が8つのグループに分かれて取り組んでいます。これまでに調査 分析 発表を何度も繰り返しながら、<学生らしい斬新なアイデア>と<問題解決につながる実現可能性>の半ば相反する高度な要求に応える提案をすべく日々頑張っています。

実は来年度からこのプロジェクトは「地域連携キャ



現地見学ツアーでは山田勝彦小樽市長からの激励をいただきました。



東京（社会人基礎力グランプリ）でも発表し、みごと優秀賞獲得！

リア開発」という名前の正規の講義として開講され、観光以外のさまざまな課題にも取り組んでいく計画です。今後も地域の中で育つ学生の成長を支援していたければ幸いです。

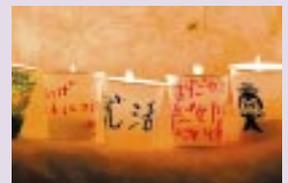
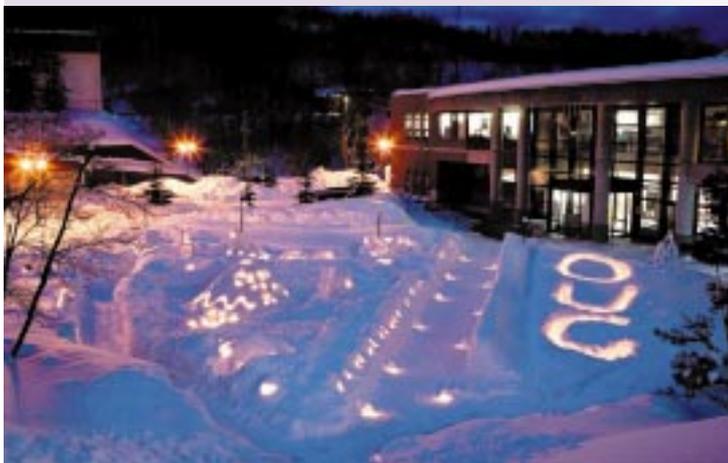
商大雪あかりの路

小樽雪あかりの路のイベントに合わせて商大キャンパスでも2月10日・12日・13日の3日間、5回目となる「商大雪あかりの路」が開催されました。オブジェや雪のキャンドルで飾られた夜のキャンパスは幻想的な雰囲気になりました。

運河会場や手宮線会場とはまた違った雰囲気がある商大会場にも来年は是非足を運んでみて下さい。



学長・副学長等と学生スタッフ



商大君のオブジェも登場



商大図書館学外開放のご案内

開館時間 通常期間]/(月～金)8時45～22時(土)10時～19時30(日・祝)10時～17時
" [休業期間]/(月～金)8時45～17時(土・日・祝)10時～17時

INFORMATION

平成21年度公開講座・公開授業のお知らせ

「外国人による集中外国語講座シリーズ」

英語、韓国語、ロシア語、中国語の各講座
4～7月実施予定

「夜間主コース通常授業公開講座」

前期募集期間：4月6日～20日
試聴期間：4月6日～13日までの
本学学生オリエンテーション期間

右記授業科目は、前期・後期・通年とそれぞれ開講時期が異なります。受講料その他詳細は以下にお問い合せ下さい。

【お問い合わせ先】：学務課学部教務係0134-27-5244

公開授業科目

哲学 心理学 日本文学 言語学 歴史学
社会思想史 政治学 社会学 社会科学特別講義
数学 物理学 化学 生物学 基礎数学
生活と健康 ドイツ語 フランス語 中国語
経済理論 経済と統計 経済史 応用ミクロ経済学
経済学と現代 経済学演習 市場システム論
市場システム論 金融システム論 国際市場論
経営学原理 経営管理論 現代企業管理論
現代企業管理論 簿記原理 会計学原理 管理会計概論
法学 憲法 民法 刑法 行政法 商法 商法
民事手続法 社会保障法 国際取引法 知的財産権法
統計科学 計画数学 オペレーションズ・リサーチ
計画科学 経営システム基礎
プロジェクトマネジメント基礎 情報処理基礎
知識科学基礎 コンピュータネットワーク論 情報と職業
社会情報入門 現代社会と歴史論 人間科学論 言語文化論

商大グッズ



商大グッズ新商品誕生!

商大グッズに新商品が加わりました。商大オリジナルタオルは、学生が立ち上げた「地獄坂工房」企画商品の第1弾で、スクールカラーのエンジ色を基調としたデザインとなっています。また、国際取引法ゼミ生が企画したコインケースも、以前に製作したキーケース・名刺入れに次ぐ第3弾として誕生しました。

いずれも商大生協、駅前プラザ「ゆめぼーと」で販売しています。是非お買い求め下さい。



オリジナルタオル 600円



コインケース 1,300円



日本酒「小樽緑丘」2009
百周年記念ラベルで
3月19日新登場
1本 1,600円

平成21年度前期行事予定

4月 3日	入学式
6日	授業開始
6月25日～28日	大学祭
(緑宵祭：25～27日 緑丘祭：26～28日) ゼミやサークルの企画や発表会の他、流しソーメンや花火大会などイベント多数。	
7月 7日	創立記念日
28日～8月 4日	前期定期試験
8月 5日～9月30日	夏季休業
上旬	オープンキャンパス
高校生の皆さん向けに、模擬講義や授業紹介、大学生生活や留学の相談などを行います。	
15日	緑丘戦没者慰霊祭
9月30日	学位記授与 (9月卒業)

学生や先生の活動、イベント、学内の風景等をブログで毎日好評更新中!



<http://d.hatena.ne.jp/shoudai-kun/>

編集後記

今回の特集では学生寮をめぐる今昔を取り上げてみましたが、昔の寮のうち第5寮(清明寮)の写真だけがどうしても見つかりませんでした。太平洋戦争の末期から戦後の5年程しか使われなかった寮ですが、どなたか写真をお持ちではないでしょうか。是非お知らせ下さい。(お)

編集スタッフ 尾形弘人、中浜 隆、今本啓介、西永 亮

【ご意見・ご要望のお願い】

広報委員会では、読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より良い広報誌を作成する所存です。取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構ですから下記にお寄せください。
E-mail: kouhou@office.otaru-uc.ac.jp FAX: 0134-27-5213

URL <http://www.otaru-uc.ac.jp>



バックナンバーはこちらから
<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/hermes>

誌名の由来

ヘルメス(Hermes)は、ギリシャ神話の神の一人で伝令の神、また商業、学術などの神、クーリエ(courier)とはフランス語で郵便物のことですが「～通信」として新聞紙名等に用いられています。ですから「ヘルメス・クーリエ」とは「商大通信」とであるとご理解ください。